建もの旅日記　第1回

オランダの首都アムステルダムから

㈳日本建築家協会　沖縄支部長
慶佐次　操　㈲名工企画設計

この1年間「住まい備忘録」と題し、日本建築家協会沖縄支部会員によるリレー掲載を有難うございました、皆様如何でしたでしょうか…？

さて、今度は「建もの旅日記」と題し、各自が訪れた旅先での印象、建ものや街並み、風土等を日記風に綴り2順目のリレー掲載をさせて頂きます。紙面旅行のつもりで、皆様お付き合いを宜しくお願いします…。

スタートの私は、オランダの首都アムステルダムから、「人に優しい街 －運河と自転車 －」と題して始めます。

網の目状の運河（水と風の流れ、そして水上の路）

オランダは現地名「ネーデルランド（低い国）」と言われ、国土全体の標高が低く約1／2が海抜0m以下の低地帯です。シンボルの風車が沼地などの水を運河へかい出し、運河から海へと流す、運河の発展はオランダが洪水と闘ってきた歴史を物語っています。

さて首都アムステルダムは、旧市街の中を5本の大きな運河が同心円状に広がり、その間に小さなカナルが網の目状に張り巡らされ、17世紀のオランダ黄金時代の豪商達の邸宅群と共に美しい街並みを今に残します。街の空間構成では運河が大きな骨格をなし、その水と風の流れは街の隅々にまで行き渡り、私も緩やかに湾曲した運河沿いを歩いてみれば、運河が街全体の冷却効果をもたらし、地球温暖化に対して良好な対応策である事を肌で感じるものです。

またオランダは自転車の保有率が人口1人あたり1・1台で世界1位です。それは、自転車に適した平坦な国土と、国の自転車に対する交通行政がしっかりと確立されているからです。

アムスの街でも多くの自転車（台数も種類も）が行きかっています。公共交通トラムの発達もあって車の交通渋滞は少なく、排気ガス防止と人々の健康促進に役立ちます。自転車専用道は茶色の舗装がなされ、私も自転車でそこを走れば、アムスの街が殆どヒューマンスケールで構成されていることに感心させられます。

「神は世界を創ったが、オランダはオランダ人が造った」諺の様、運河と自転車で人に優しいアムステルダムの街にすっかり魅了された旅でした…。

自転車大国（子供を運ぶ）